

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	原 圭寛
主な担当科目	教育原理,教職実践演習(中・高),生涯学習概論,道德指導法
2025年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	2025年度は、100分14回授業への移行と、座学のオンライン授業への移行促進という大学全体の方針に基づき、「教育原理」「生涯学習概論」「教職実践演習」「教育課程編成論」の授業日程の再編及び「道德指導法」の一部オンデマンド授業化を行い、学生の様子を見ながら最適化していくことを目標とした。また「基礎ゼミ」については、テキストの再編を行うことを目標とした。授業の難易度については、前年度同様の設定とした。
2025年の教育に関 する自己評価	100分14回授業への移行については、特に「教育原理」において従来よりもディスカッションの時間を充実して取ることができるようになり、加えてフィードバックの時間も長めにとることができるようになったことから、内容的にも期待以上の深化が見られた。また「道德指導法」は講義部分をオンデマンド化したことによって学生の復習を促進することができたほか、対面授業の際にディスカッションや模擬授業に集中して取り組むことができるようになったため、当初の想定よりも大きな学習効果の高まりが見られた。「基礎ゼミ」テキストについては、全面改訂を行い4月から使用を開始した。
2025年のFD活動 に関する自己評価	本学主催の2回のFD研修会のほか、日本高等教育学会オンラインセミナー(3月29日、オンライン)、大学教育学会第47回大会(6月7日～8日、於桐蔭横浜大学)、大学教育学会課題研究集会(11月15日～16日、於東京大学)等の学外のFD関連イベントにも積極的に参加し、能力の向上に努めることができた。また、東北大学PDセミナー(3月15日、オンライン)においては、「戦後アメリカ高等教育の展開:カリキュラム・学生・研究支援」と題する講演を行った。
授業改善のために 取り入れた研修内容	特に大学教育学会主催の2回のイベントでは、国内他大学の事業実践事例や海外大学の動向などを参考として、授業構成の見直しを行った。ここでは紹介された成功事例の内容を取り入れるというよりも、失敗事例に着目し、同様の失敗が発生しないように注意しながら自身の授業実践等を振り返ることを中心とした。

2025 年度(春学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3568 教員名:原 圭寛

1)アンケート結果に対する所見

2025 年度は「教育原理」対面4クラス、「生涯学習概論」オンデマンド1クラスを単独で、「教育課程編成論」オンデマンド1クラスを共担で担当した。

アンケートの数値的には、一部を除き、すべての授業において本学全体平均と同等の数値であった。「教育原理 C」については全体的にやや低めの数値が出たが、これは時間割設定の都合上、同クラスの履修者が再履修者に偏ったためと推測できる。このことから、再履修者については初修の学生とは別の手当てが必要であることが示唆される結果となった。

「生涯学習概論」については、特に Q6・Q10 で低い数値が出た。しかし両設問とも回答件数が両極端に振れているため、学生個々のモチベーションがアンケート結果に反映されたものと考えられる。本授業は卒業要件外の資格課程科目であるため、このようなオンデマンド形態の授業に積極的に参加できない学生に対し、教員の側からアクションを取る必要はないものとする。

2)要望への対応・改善方策

自由記述については、特段取り上げるべき要望等は無かった。対面授業においてはディスカッション及びレポート指導の面で、オンデマンド授業についてはスケジュール調整等の面で好評であったため、次年度も継続して取り組みたい。

3)今後の課題

1)で示した通り、「教育原理」再履修者への対応が大きな課題となった。次年度については再履修者を別クラスにまとめ、個別指導を中心としたアプローチへと変更していく。

以 上

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3568 教員名:原 圭寛

1)アンケート結果に対する所見

本学期は単独で「道德指導法」3 クラスと「生涯学習概論」1 クラス、また共担で「教職実践演習」1 クラスと「教育実習 I・II」を担当した。アンケートについてはすべての科目で概ね平均値を超えていた。

2)要望への対応・改善方策

単独で担当する科目は対面・オンラインを問わず多様なツールを用いて学生間での交流を促す形態を多用しており、これが好評であった。

3)今後の課題

アンケートはあくまで学生の「感想」であり、これのみを授業改善の根拠資料とするべきではない。むしろ重視すべきは設定した到達目標に対する学生の到達度であり、当方の担当授業においてはいずれの授業・クラスにおいても期待通りのものであった。従って、今学期に関しては特段改善点は見られず、次学期以降も本学期同様の授業展開を行っていくこととする。

以 上